

陸上運動部部便り

2006年6月号

関東インカレ・国公立戦

目次

1 関東インカレ	1
1.1 監督の言葉	1
1.2 主将の言葉	2
1.3 試合経過	2
1.4 試合結果	8
2 国公立戦	12
2.1 監督の言葉	12
2.2 主将の言葉	12
2.3 女子主将の言葉	12
2.4 試合経過	12
2.5 試合結果	19
3 2006年度部内5傑 2006.5.27.現在	22
4 自己記録更新者一覧 2006.4.9~5.27	24
5 主務より	24

1 関東インカレ

1.1 監督の言葉

目標の持ち方 監督 寺田秋夫

第85回関東インカレは5月13,14日に上尾、翌週20,21日に日産スタジアムの4日間で開催されました。本学からは学部チームが延べ29名、大学院チームからは4名が参加しました。競技の詳細は部員からの報告をご一読いただきたいのですが、結果は、学部が8点(800m新井3位、三段跳佐野8位、走高跳田中6位)、大学院は10kmW春木優勝の8点で双方22位という結果でした。学部チームの29名は参加85チーム中4番目であり、多くの選手を出せました。但し、2

部の総参加選手は688名で総得点828点から弾けば期待値25点のチームです。ところが結果は8点で、選手は多いがBを切って間に合わせただけの選手が多いことを露呈してしまいました。

書き出しから元気が出ませんが、今の本学を象徴する事でもあるので書きました。他にも印象的であったことが2つあります。一つはインカレのご案内で「部員一同1部昇格を目指しています」と書いてしまったことです。本学は2部校ですから、「部員一丸となって1部を目指す」のはあるべき当然の姿です。しかし、A標突破での出場が8人だけでは、確実に点が取れる種目が少なく「近い将来に1部昇格を目指すべく部員一丸」という程度の表現なら正しいと思いますが、試合前に目標においた獲得点数でも1部昇格に足りないのは明確であり「目標」として掲げるには違和感がありました。定型文だという考え方もありますが、各部員様々な思いの中で競技しているのですから、こういう言葉は真剣に使いたいと思います。監督スタッフ側の指導不足の問題なので今後直していきます。もう一つは、自己記録を出した者が6名と多かったことです。ここ数年、大舞台で力が出ない傾向が続いていた中、こちらは嬉しい想定外の出来事でした。特に新井の800m決勝、佐野の三段跳のエイト争いを制した3跳目での自己記録は応援側に勇気を与える素晴らしい内容でした。今回、自己記録更新者とレース後に話してみると、自分を客観的に捕らえていることが多く、喜ぶだけではなく反省点を認識していました。今回以上の記録を明確に目標に出来ていたのだと思います。上記の6名の健闘以外にも、結果に結びつかなかったものの良い試合ができた選手も数名いました。1部昇格は157点を取った国際武道と74点の城西大、落ちてくるのは千葉商大・平成国大で、1部校の院、東学大が残ることを考

えると、来年は例年以上に得点がバラける試合となりそうです。インカレばかりが試合ではありませんが、国内で一番盛り上がる試合ですので、来年のご案内には本気で、「部員一丸となって一部昇格を目指す」と書ける様に明確な目標をもって、やらねばならないことを選手もスタッフも日々確認しながら過ごしたいと思います。それが、その他の対校戦にも生きてきますし強いチーム作りの風土になると信じています。いよいよ対校戦シーズンです。OB・OGの皆様の益々のご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

1.2 主将の言葉

主将 竹内昌男

申し訳ないの一言です。昨年秋の主将就任時から「関東インカレ一部昇格」ということを声高に繰り返し述べてきたのですが、現実には遠く及ばない「8点」という結果。たくさんのご声援や励ましの言葉をかけていただいたOB・OGの皆様方に対し、現役部員を統括する立場の人間として本当に申し訳なく思います。またそれとともに、主将としてチームに何も貢献できなかったことを現役部員諸君に対しても申し訳ない気持ちで一杯です。しかしながら、チームとして戦う姿勢は見せられたと思っております。結果こそ不甲斐無いものでありますが、選手たちと応援する部員たちの一致団結した戦いでした。これから挑む七大戦・京大戦に対し、必ずや皆様方のご期待に応えられる結果を残すつもりです。現役部員一同もその大きな目標に向かって挑戦し続ける決意のもと、尽力してまいりたいと思います。今後も変わらぬご声援のほど、よろしく願いいたします。

1.3 試合経過

トラック 1日目 (5/13)

10:00 2部男子 100m 予選

2組5レーンに渡辺(1年)の出場。10秒台のベストをもつ期待の選手だが、1年目ということもありまずは予選通過が大きな目標となる。スタートはまずまずの出だし。しか

し冬期練習が積めていないせいか、中盤へのつなぎからうまくスピードにのることができず徐々に遅れてしまう。後半、前の選手にくらいつくも予選通過ラインの2着は確保できず11"37の4着でゴール。このとき風は向かい風1.6mであった。まだ1年生。今回は厳しい結果となったが来年以降、より上をめざして頑張ってもらいたい。6組5レーンに米田(M1)の出場。来年に向けて2年計画の初戦という位置付けで万全の状態ではないが、04年2位、去年は故障で無念の準決勝落ちとなっている米田は今年も決勝で勝負することが期待される。しかしスタートからいつもの爆発力が見られず、中盤以降も差を広げられてしまう。身体が動かない状態では後半以降の修正も不可能で、結局11"62の6着でフィニッシュ。風は向かい風1.4mであった。本人は「スタート直後に脚が痙攣を起こしてしまった。なんとか立て直して走ろうとしたが後半再び脚にきてもう無理だった」と語っている。集大成となる来年のリベンジを期待したい。

11:15 2部男子 110mH 予選

4組4レーンに尾崎(2年)の出場。昨年1年生ながら準決勝まで進出した尾崎にとって今年は決勝進出、また東大記録の更新を目指してのレースであった。1台目までは出遅れたものの、持ち前のスピードを生かし中盤で2番手に浮上。1着とはやや離れたものの3着以降に大きく差をつけそのまま15"41の2着でゴール。このときの風は向かい風1.8mだった。細かい技術面では満足のいくものではなかったが準決勝に確実に進出したという点でよいレースだった。5組3レーンに梅沢(4年)の出場。今年で最高学年となった梅沢は自己ベストを大きく更新しての決勝進出を目指してのレースであった。前半は出遅れてしまうものの抜群のハードリングで中盤には4着まで順位を上げてきた。しかし8台目の着地でバランスを崩し減速、9台目のハードルを手で倒してしまい途中棄権となってしまった。このときの風は向かい風0.8mだった。残念な結果だったがハードルにつきもののアクシ

デントとして本人はすぐに気持ちを切り替えており、以降の対校戦でのベストの更新に期待は持ち越した。

13:35 2部男子 3000mSC 予選

石原(3年)の出場。今シーズンは1500mで3分台を出すなどスピードに磨きをかけてきた。レースは集団のまま1000mを3'07"で通過。しかし1600m付近で、亜細亜大の菊池(決勝は8'41"で優勝)が1人抜け出すと、集団のペースも一気に上がり、2000m付近では集団は2つに分かれ、石原は出遅れて第2集団後方に食らいつく。何とかペースを維持して、ラスト1周でスパートをかけると、並走していた2選手を何とか振り切り9'24"40の12着でゴール。標準記録をぎりぎり切るレベルではレースで勝負するには至らず、力不足であることを改めて思い知らされる結果ではあったが、わずかながらも自己ベスト更新する好走であった。七大会では複数種目での上位入賞を期待したい。

15:15 2部男子 110mH 準決勝

2組2レーンに尾崎(2年)の出場。決勝に進出するためにはベスト以上が求められる尾崎にとって正念場となるレース。1台目まではほぼ横一線だったがハードリングが若干乱れてしまい台を越えるごとにじわじわと他の選手との差が大きくなってしまふ。その差は最後まで埋まらず15"80の7着でゴール。このときの風は向かい風1.5mだった。本人にとっては不本意な結果ではあったが一から技術を磨きなおよす決意をしており、来年の関カレでは必ずや決勝に進出する姿を期待できそうである。

トラック 2日目 (5/14)

9:30 2部男子 1500m 予選

予選2組目に、腰番号10の黒澤(4年)が出場。今季、ここまでの記録会では3連続で自己ベストを更新、関東インカレ出場にこぎ着けた経緯がある。勢いそのままに4連続の自己ベスト更新、そして決勝進出なるかがレースの見所となった。スタート直後でのぶつかり合いではじかれるてしまふが、ここは落ち着いて対応する。最後尾か

ら前を伺い、終盤のために力を溜めてほしいところ。1週目の通過は64秒台と悪くないペース。600mを過ぎたところで順位を上げようとするが、周りの選手も実力者揃いであり、思うようにいかない。800m地点を通過する時には上体のブレが大きくなってしまふ。前に行く選手のスピードとストライドのリズムに吞まれたか、黒澤はいつもの軽快なピッチを見失う。無情にも離れていく先頭集団。切り替えもままならなかったが必死に追いつき、ラストでなんとか1人をかわし、12着、4'05"38でゴール。力を出し切れず、連続ベスト更新はならなかったが、大舞台でのこのほろ苦い経験は今後に生きるものであったと評価できよう。奮起に期待したい。

10:45 2部男子 4 × 100mR 予選

1組8レーンに1走田中(3年)-2走渡辺(1年)-3走斉藤(2年)-4走尾崎(2年)の走順で出場。若いチームだが、「ここ数年で最も速いチーム」と言われるほど、期待されていた。1走の田中は今季好調を維持していたが、この日も得意のスタートダッシュから素晴らしい走りでも他校に引けをとらず、2走渡辺へバトンをつないだ。渡辺も1年とは思えぬ貫禄ある走りでも加速を続け、徐々に他校に差をつけ3走斉藤へバトンパス。斉藤はここ最近、若干調子を落とし気味だったものの、この日のレースではその様子は見られず、東京理科大などとのトップ争いを続けながら4走尾崎へ。ここでのバトンパスにおいて、尾崎の飛び出しが若干早かった。それでも斉藤はバトンを渡しかけた。しかし無理があり、バトンをはじいてしまい、無念のDNFとなった。絶好調のチームであっただけに残念な結果だが、ここでの経験を今後活かしてもらいたい。

15:05 2部男子 4 × 400mR 予選

昨年の関東インカレのメンバーから3人が入れ替わり、3組7レーンに1走伊勢田(4年)-2走相川(4年)-3走深澤(2年)-4走今村(3年)の走順で出場。東大としては久しぶりとなる3分20秒切りと決勝進出を目指してスタートラインについた。経験を買われ

1走に抜擢された伊勢田だが、猛然ととばすインレーンの上武大に惑わされ思うような走りができない。それでも後半は粘りを見せ、4~5番手でバトンを渡す。2走の相川は前半かなりゆったりとした入りで順位を落としたが、残り150mからスパート。2校を抜き去り前との差を詰めながら4番手で3走深澤へとバトンパス。深澤は勢い良く飛び出しバックストレートで3位の理科大に並びかけたものの、前に出ることができない。逆に後半足が鈍り、順位を1つ下げてアンカーの今村にバトンを渡す。今村はバトンパス時の混戦で上智大に抜かれてしまう。そのまま前半は差を広げられてしまうが後半から徐々に差を縮め、ゴール直前で東経大を交わして5着3'21"75でフィニッシュした。決勝進出ラインの3分18秒には遠く及ばず、力の差を痛感させられたものの、昨年のベストを上回るタイムで今後の可能性を感じさせた。

トラック3日目(5/20)

9:40 2部男子10kmW決勝

今年からウォーク競技は10000mWから10kmWとなり、横浜日産スタジアムの周回コースでレースが行われた。学部チームから深尾(4年)、菅野(3年)、北沢(1年)、大学院チームから春木(M2)の出場。気温が25程度と若干厳しい気象条件の下、1部校と2部校が同時にスタートを切った。連覇が期待された春木は、序盤から1部校の先頭集団に付き、積極的なレースを展開。中盤、一時2番手の選手に先行を許したが、再び追いついてからは競り合い、残り100mでラストスパート、44'38"で見事2連覇を飾った。一方、学部では菅野が序盤、1キロ5分を切るペースで歩いたが、警告を立て続けに受けてペースを落とした。しかし、中盤以降は踏みとどまり、51'44"と自己ベストを5秒更新し15位。初出場の北沢は、序盤から一人旅となり、終始苦しいレース展開を余儀なくされ、56'24"の18位と実力を十分には発揮できなかった。深尾は怪我から完全に回復しない状態での出場となったが、控えめのペースで落ち着いた歩きのみ

せ、58'07"の19位で学部での競技生活を締めくくった。学部の選手による得点はかなわなかったものの、出場の全員が完歩し、さらに菅野が自己ベストを更新するなど、今年も競歩チームの強さは見せられた。来年は学部選手による得点を期待したい。

12:15 2部男子200m予選

3組8レーンに渡辺(1年)の出場。100m、4×100mRに引き続き、3種目目の出場である。スタートでよい反応を見せるが、前半は実力で勝るほかの選手に圧倒され、なかなかスピードに乗れず、最後尾で直線に入る。しかしそこからよく粘り、残り30mで前を行く選手をとらえると、そのまま混戦にもちこみ22"16の6着でフィニッシュ。22"1台に5人が並ぶ接戦であった。予選通過はならなかったが、追い風1.9mの好コンディションにも恵まれ、入学1ヶ月あまりで自己ベストをたたき出した。今後の活躍に期待したい。

13:55 2部男子800m予選

1組目に庄司(M1)の出場。関東インカレに初出場の庄司は、スタート直後から積極的に前に出て2番手につける。そのままの位置でホームストレートに入り、400mを59秒と、やや遅いペースで通過する。しかし、そこから急激に周りのペースが上がり、500mを過ぎた辺りで一気に最後尾まで下がってしまう。庄司は残り200mで再び加速し、懸命に順位を上げるが、ラスト100mのスパート合戦では力及ばず、1'58"17の7着でゴール。展開に恵まれず、悔いの残るレースとなった。来年はこの経験を糧に、さらなる飛躍を期待したい。2組目に新井(4年)の出場。今回が800mでは初の出場となった新井はやや抑えたスタートで、最後尾につける。そのままの位置でホームストレートに入ると、そこから徐々に順位を上げて、400mを4番手54秒で通過。新井はさらにペースを上げ、500m過ぎで先頭に立つ。そのままの位置で残り200mを通過するが、コーナーで青山学院の選手に交され、2番手で直線へ。新井は粘りの走りで後ろから上がってきた選手との競り合いを制し、1'55"22の2

着でゴール。プラスの2番目となり、3度目の関カレで、嬉しい初の決勝進出となった。

トラック4日目(5/21)

11:20 2部男子800m決勝

3レーンに新井(4年)の出場。絶好のコンディションの中、記録と順位両方を狙ってのレースとなった。前日の予選とは違ってかわり、新井は好スタートから先頭と差のない2番手につける。そこから明海大の選手が抜け出しハイペースでレースを引っ張る形となる。新井は2位集団の先頭につけ、400mを54"で通過。そこから周りの選手のペースが上がり、バックストレートでは激しい順位争いとなる。残り200mを過ぎて選手が交錯し、新井は一旦順位を下げてしまうが、第4コーナー出口でうまく他の選手を交わして4番手で直線へ。そこから新井は懸命のスパートを見せ、3番手にいた選手を胸ひとつの差で競り落とし、1'53"50の3着でゴール。日本インカレの標準記録(1'53"00)には惜しくも届かなかったものの、見事に表彰台を勝ち取った。関東インカレ初の決勝にして、チームに感動を与える3位入賞となった。

フィールド1日目(5/13)

10:00 2部男子ハンマー投決勝

庄司(3年)、小笠原(D1)の出場。競技は小雨降る肌寒い中実施された。庄司は最近4回転を導入し、1投目から果敢に試みていった。しかし、回転につれ接地が遅れていく癖がでてしまい網に当たってファール。2投目もやはりファール。3投目には3回転で31m88の記録を残すことが精一杯だった。結局、23位に留まった。小笠原は1投目は慎重に投げて41m82の記録を残す。2投目はスピードを上げていき42m68と記録を伸ばした。3投目は記録更新を狙い攻めていったが、バランスを崩してファールとなった。42m68とまずまずの記録を残すが、上位の層が厚く15位に終わった。

13:30 2部男子走幅跳決勝

肌寒い悪条件の中、竹内(4年)、尾崎(2年)、

武安(2年)の出場。フルエントリーを果たしたこの種目で、初日からチームに勢いを与えたいところ。今シーズンに入って三者とも大学ベストを更新してきて、応援席の期待も膨らむ。第一跳躍者の尾崎は持ち前のスピードを生かした助走で1跳目から6m87を跳ぶ。しかし、悪コンディションに打ち勝つことはできず2、3跳目は記録を伸ばせないまま10位に終わった。武安は踏み切り前に動きが堅くなる跳躍が目立ち、思うように記録を残せない。それが多少改善されると、今度はファウルをしてしまう。結局6m59に留まり17位。直前になってグッと調子を上げてきた竹内はこの日も好調そのもので、1、2跳目は楽に7mを越す跳躍を見せるが、惜しくもファウル。3跳目は精神的に追いつめられてしまったのか、スピードを出せず6m88で9位でエイト漏れだった。入賞ラインは7m01で、三者とも持てる力を発揮できれば十分に手が届く記録だったこともあり、非常に残念な結果となってしまった。

フィールド2日目(5/14)

10:00 2部男子三段跳決勝

佐野(4年)、倉員(3年)の出場。前日の雨も止み、比較的競技しやすい環境での試合となった。佐野、倉員ともに4月にそれぞれ自己ベスト、大学ベストを記録し調子は上がってきており、応援にも力が入る。倉員は昨シーズンに比べて助走スピードが上がっており、1本目の跳躍ではつぶれながらも13m82を跳ぶ。残りの跳躍では果敢に攻めて大きな記録を狙ってきたが、ステップのタイミングがもう少しのところをつかめず惜しくも記録を伸ばすことができなかった。佐野は、2本目終了時点で、14m32で7位。記録に対して、ステップの際に体が乗り切れておらず、余裕を残しての3跳目となったが、直後に記録を2人に越されて9位となってしまった。しかし、佐野は試技ごとに記録を伸ばす選手であり、期待は高まる。そして空気が張り詰めるなか、見事自己ベストの14m46を跳び、1cm差で8位に食い込んだ。これが決勝記録となったが、

見事な試合だった。今回は国際武道大学の参入等で、例年よりもはるかに厳しい闘いとなったが、二人とも健闘した。残る対校戦では、表彰台を独占してほしい。

フィールド3日目(5/20)

9:30 2部男子やり投決勝

北川(2年)の出場。当日の風はとても強く一波乱起きる予感がした。しかし中・下位層の順位に多少の変動があったものの、上位陣は安定した記録を残し前評判通りの結果となった。北川の1投目は中指だけグリップにかける対関カレ新投法で投げるも、上空で風にあおられ47m後半。2投目は親指と中指をかける通常投法で投げたが記録が伸びず自らファールラインを踏む。3投目はフォークグリップで勝負してみたが46m台に終わる。記録は2投目の47m65でベストには程遠い結果であった。

13:00 2部男子走高跳決勝

田中(6年)の出場。前日までは雨の予報であり、当日の朝も雨の気配はあった。しかし競技開始の少し前には完全に晴れた。風もあまり舞うこともなく、晴男田中啓ここに在り、といったところか。試技は1m90から開始された。田中にとっては昨シーズンのベスト記録と同じ高さであったが、これを流れ気味な跳躍ながら一跳目でクリアする。続く1m95、踏切技術の甘さからか再び流れ気味の跳躍になってしまう。しかしそこは6年生ゆえの年の功か、はたまた年寄りの執念か。危ないながらも粘りのクリアランスを見せ、見事一跳目でクリアする。ここまで無駄な試技がないため、流れにのって自己記録である2m00もクリアしたいところ。2m00の一跳目、やや力んだかうまく踏み切れず失敗。二跳目、修正しにいったものの、まだうまく身体が上がらない。残りの一跳目に全てを託す。三跳目。リラックスした助走の入り、滑らかな助走ラインを描いてしなやかに跳び上がった。間違いなく今日一番の跳躍であったと言えるだろう。しかし無情にもバーはガランと音をたてて地面に転がった。結果、記録1m95であった。試技

数差により6人が6位タイに並び、田中は1点を得点した。

フィールド4日目(5/21)

9:00 2部男子円盤投決勝

合田(4年)の出場。本来ならば3日目の開催であったが、悪天候のため延期となり、最終日の開催となった。合田は、前日の疲労が残ってはいるものの、1投目に37m29を投げて上位につける。しかし、2投目以降は修正のミスと力みから記録をのばすことができない。結局、37m29の10位であった。

11:20 2部男子棒高跳決勝

大谷(2年)の出場。一番低い高さ4m00から試技を開始。この高さは1跳目で余裕をもって成功。バーの高さは4m20へ。1跳目は向かい風が強く助走がスピードに乗らずに失敗。2跳目はうまく修正し成功。バーの高さは4m40へ上がる。1、2跳目ともに向かい風のせいか助走にスピードがなくポールが立たず失敗。3跳目、前の二本と比べて惜しい跳躍ではあったが失敗。記録は4m20でエイトもれであった。

混成競技

2部男子混成(5/13-5/14)

持永(4年)の出場。初日はあいにくの雨というコンディション。しかし最後の対校戦となる持永にとっては雨などは関係ない。雨に打たれる表情からも関東インカレに対する気合いが伺えたが、総合得点は初日2797点、2日目2695点の5492点の11位で、今季ベストに届かず、入賞も果たせないという残念な結果に終わった。今後の奮起に期待したい。

1日目(5/13)

9:00 男子混成100m

今季まだ12秒台しか出していない持永にとってはいきなりの鬼門となる100m。是非自己ベスト、最低でも11秒台は出したい。1組目の第3レーンに持永、隣のレーンには優勝候補筆頭の国士大院の選手。スタートの

合図と同時に持永はいい飛び出しを見せるが、隣の選手がさらに素晴らしいスタートを切る。ジワジワと離されるが、最後の2~30mは粘りを見せ差を保ったままフィニッシュ。向かい風1.5mの中、今季ベストとなる11'96で659点を出しさい先のいいスタートを切る。

10:00 男子混成走幅跳

去年の関東インカレで十種選手中、唯一走幅跳が5m台だった持永。今年はなんとしても6mを跳びたいところ。100mと違って風も追い、また助走合わせの感じもよく、まずまずの記録が期待できそうである。1試技目、記録を残すため半足長ほど助走位置を後ろにした。助走もしっかり走れ、踏み切りも持永としては良く、6mわずか手前に着地するが5cm程ファール。2試技目は1試技目よりさらに半足長ほど後ろから助走を開始する。踏み切り位置は合ったものの、助走の最後間延びしたため低い跳躍となり5m57。3試技目、記録を伸ばすため助走位置を10cm程手前にし、最後を刻む感じで跳躍。空中動作もまとまったが、10cm程ファールし記録は残らなかった。この種目5m57で496点。

12:30 男子混成砲丸投

今季に入りベストを更新し11mを投げているこの種目。好記録が期待できそうである。雨でサークルが滑るためか、1投目は慎重に記録を残しに行き10m13。1部、2部の十種選手が同じピットでやるということもあり、試技の間は30分ほど開く。気温が低いこともあり、間をどうやって過ごすかがこの種目の鍵であった。持永は試技順の数投前から体を動かし始め、2投目。グライド動作はよかったものの、腰が抜けたような投擲になり、10m25。そして最後の3投目。砲丸の泥をしっかりと落とし、滑り止めを手に十分つけピットへ。グライドで一瞬崩れたがパワーポジションではしっかり形をつくり最後まで押し切った。しかし記録は10m21でわずかに2投目には届かなかった。この種目は10m25の501点を残した。

14:40 男子混成走高跳

この種目の十種競技の中でのベストは1m75だが、雨の日は苦手で、今年に入ってから雨の日は記録を残したことがない。そのせいかいつもより慎重に1m60からの開始。1m60をクリアすると続いて1m65。1m65もバーの位置に頂点が合わなかったものの難なくクリア。続いて1m70。1試技目、バーに向かって突っ込んだ跳躍になってしまい失敗。2試技目、助走でうまくカーブを描けず、踏み切らないでバーの下をくぐってしまう。3試技目、助走の開始もよく踏み切った。一瞬越えたかと思われたが、体が流れてしまい、足が当たって失敗。この種目1m65の504点を残し終了。

17:10 男子混成400m

持永は2組の第5レーン。スタートから飛ばし気味に入るが、第2コーナー付近で内側のレーンから1人飛び抜けてきた選手にかわされる。バックストレートでは離されないように食らいついていく。しかし第3コーナーから第4コーナーにかけてさらに何人かにかわされズルズルと順位を落としていく。それでもホームストレートに入って最後のスパートを見せ、1人抜き返しフィニッシュ。この種目54'06の637点だった。

2日目(5/14)

9:00 男子混成110mH

今季に入りなかなか調子の上がってこないこの種目はなんとかして良い記録を残してもらいたい。1組目第2レーンでスタート。1台目2台目が詰まり高く体が上がってしまっても完全に周りから遅れたが、3台目以降少しずつ修正していく。同じ組にいる14秒台の記録を持つ選手が飛び抜けていき、その後を他の選手が続いていくという形になった。持永は7台目くらいまで最後尾だったが、1人前の選手が疲れたのかハードリングが荒くなってきて少しずつ持永との差が縮まってくる。10台目を越えた後、必死のスパートをかけたが、結局持永は抜かせずに最下位。しかし、記録は自己ベストとなる16'98(-0.7)で626点を取った。

10:00 男子混成円盤投

この頃になると雨も上がりサークルは濡れているものの晴れ間も見えてきた。持永は冬明けの練習で30mを越えていることもあり、28m82の自己ベストの更新に期待がかかる。1投目、記録を残しにいった感じの投擲になり、27m98。2投目、1投目より大きくファーストターンを始め、セカンドターンで加速しようとしたが上手く回りきれずに26m台。周りの選手が20m台後半に固まっているので、3投目に30m越えの記録を出し、差をつけたいところ。3投目、ファーストターンをゆっくり大きく入り、セカンドターンに向かう。しかしパワーポジションが若干崩れ、円盤が横に抜けてしまいファール。この種目、27m98の425点を残した。

12:15 男子混成棒高跳

持永にとって、フィールド種目中自己ベストの点数が一番高いのがこの種目で、大量得点が期待される。開始の高さは3m30。突っ込みで腕がつかれてしまうも余裕をもって一発でクリア。次の高さは3m60。一発で跳びたいところだが、1試技目はもぐった踏み切りになってしまい失敗。2試技目、助走の最後にテンポアップが見られなかったもののしっかり踏み切り、この高さを何とかクリア。次の高さは3m80。1試技目、助走もそこそこだが踏み切りが良くなく、体が上がらずに失敗。ここでポールを14フィートから15フィートの勝負ポールに換える。2試技目、助走のスピードが乗らずにポールが立たず失敗。3試技目、15フィートのポールが立たなかったため、14フィートに戻して試技開始。助走もよく踏み切ったが、今度はスピードが乗りすぎ前に踏み切ったために、ポールが伸びきる前に体が前に行ってしまう失敗。この種目3m60の509点を残した。

15:20 男子混成やり投げ

今季に入りベストを更新し40mを越えた持永、どんな投擲を見せてくれるのか。棒高跳の時間の関係で足合わせが満足に出来ず練習では30mを少し越えたに過ぎなかった。

1投目、助走のスピードは乗ったが投射角と槍の押さえ角が合わずに37m12。2投目、距離を少しでも稼ぐため助走開始を少し前にする。しかし、足が出ないことを気にしてか、クロスステップのリズムが狂って槍も高く上がってしまい34m台。3投目、思い切り投げるため助走位置をまた1投目と同じにした。助走は良かったものの、最後投げ出しの瞬間上手くブロックできなかったため、飛距離は伸びずに36m台。この種目37m12で401点を残した。

17:30 男子混成1500m

中長距離出身の持永にとって全種目中一番得意な種目。去年の関東インカレもこの種目で何人が逆転したこともあり、今年も期待がかかる。持永は最初は抑え集団のやや後方に位置する。200m～300mにかけて集団がばらけて来たところで少しずつ位置を上げていく。最初の1周はちょうど70秒。この時点で5番目くらいに位置する。次の1周も前の選手についていて位置を変えずに、76秒で回ってくる。しかし1000m付近でスローペースに嫌気が差したのか一気に3番手まで上がる。そして3周目を74秒で来て、ラスト250mでスパートをかける。ラスト200m付近で一人かわし2位に上がるも、直後に更に別の1人にかわされる。何とか食らいつこうとするが10mほど離され3位でフィニッシュ。ラスト300mは51秒であった。この種目4'31"67の734点であった。

1.4 試合結果**第85回関東学生陸上競技対校選手権大会**

於 上尾陸上競技場 (H17.5.13-14)
於 日産スタジアム (H15.5.20-21)

2部男子100m決勝 (+1.1)

1	岩本俊介	城西国大	10.50
2	長谷憲明	横国大	10.57
3	樋口慎一郎	立大	10.61
4	村上一博	国士大院	10.74

5	岩崎友晴	国土大院	10.80
6	高梨誠	東理大	10.83
7	片山昇	東理大院	10.85
8	佐藤裕介	都留文大	10.93

2部男子 100m 予選 (2着+4)

2組 (-1.6)

4 渡辺裕太 東大 11"37

4組 (-1.4)

7 米田武史 東大院 11"62

2部男子 200m 決勝 (+1.2)

1	岩本俊介	城西国大	21.05(NGR)
2	長谷憲明	横国大	21.36
3	前田貴之	国土大院	21.46
4	野澤泰	工学院大院	21.46
5	小池裕之	宇大	21.54
6	為我井悠太	国武大	21.71
7	岡泉俊平	作新学大	21.75
8	岩崎友晴	国土大院	21.98

2部男子 200m 予選 (3着+4)

3組 (+2.7)

6 米田武史 東大院 DNS

4組 (+1.9)

6 渡辺裕太 東大 22"16

2部男子 800m 決勝

1	古矢真志	青学大	1'52"28
2	岡崎隼也	青学大	1'52"68
3	新井邦夫	東大	1'53"50
4	足立翔太	東農大	1'53"52
5	佐々木宏	成蹊大	1'54"50
6	大坪祐樹	駒大	1'55"13
7	本城裕也	国武大	1'56"54
8	関山健蔵	明海大	1'59"41

2部男子 800m 予選 (1着+4)

1組

7 庄司一郎 東大院 1'58"17

2組

2 新井邦生 東大 1'55"22

2部男子 1500m 決勝

1	古矢真志	青学大	3'53"14
2	岡崎隼也	青学大	3'54"35
3	高林祐介	駒大	3'54"75
4	大坪祐樹	駒大	3'55"40
5	清水健司	帝京大	3'56"87
6	奥野貴裕	大東大	3'57"29
7	宮城和臣	大東大	3'57"34
8	國延智	大東大	3'57"36

2部男子 1500m 予選 (5着+2)

2組

12 黒澤徹也 東大 4'05"38

2部男子 3000mSC 決勝

1	菊池昌寿	亜大	8'42"57(NGR)
2	岡村翔	東農大	8'48"46
3	佐藤直樹	城西大	8'52"35
4	松浦貴之	中央学大	8'55"80
5	五刀裕規	青学大	8'55"81
6	佐々木徹也	青学大	8'56"59
7	濱屋毅	拓大	9'01"09
8	佐藤匠	大東大	9'03"82

2部男子 3000mSC 予選 (5着+3)

1組

12 石原宏尚 東大 9'24"40

2部男子 ハーフマラソン 決勝

1	森脇佑紀	神大	1:04:44
2	山下拓郎	亜大	1:04:46
3	堺晃一	駒大	1:04:56
4	加藤徳一	大東大	1:04:56
5	佐々木悟	大東大	1:05:14
6	松本光	青学大	1:06:23
7	川野竜男	城西大	1:06:28
8	伊藤達志	中央学大	1:06:30
-	<u>松本翔</u>	東大	DNS

2部男子 110mH 決勝 (+0.5)

1	鈴木直哉	城西大	14"33
2	田中慎也	国武大	14"41
3	モーゼス夢	国武大	14"50

4	三村智之	玉川大	14"59
5	山藤大士	千大	14"69
6	小林史長	東農大	14"81
7	井上雄貴	立大	14"89
8	橋俊行	国武大	14"99

2部男子110mH準決勝(4着)

4組(-1.5)

7	尾崎翔	東大	15"80
---	-----	----	-------

2部男子110mH予選(3着+1)

2組(-1.2)

-	田中啓	東大	DNS
---	-----	----	-----

4組(-1.8)

2	尾崎翔	東大	15"41
---	-----	----	-------

5組(-0.8)

4	梅沢啓	東大	15"97
---	-----	----	-------

2部10kmW決勝

1	春木洋輔	東大院	44'38
2	山根千尋	創価大	44'47
3	清水恭平	城西大	45'05
4	貝谷和哉	国武大	45'23
5	相田直樹	城西大	45'37
6	渡邊徹	国武大	45'51
7	吉楽和也	東学大	46'04
8	野口大輔	防大	46'09
15	菅野雄大	東大	51'44
18	北沢太郎	東大	56'24
19	深尾宙彦	東大	58'07

2部男子4×100mR決勝

1	国土大院	40"90
2	城西大	41"04
3	立教大	41"09
4	作新学大	41"39
5	群大	41"75
6	東理大	41"78
7	東農大	41"98
8	埼大	41"99

2部男子4×100mR予選(3着+4)

1組

- 東京大学 DSQ
(田中-渡辺-斉藤-尾崎)

2部男子4×400mR決勝

1	国武大	3'10"30
2	立教大	3'14"22
3	城西大	3'14"47
4	上武大	3'14"74
5	東学大	3'15"58
6	東農大	3'16"01
7	神大	3'16"59
8	横国大	3'18"94

2部男子4×400mR予選(2着+2)

1組

5	東京大学	3'21"75
	(伊勢田-深澤-相川-今村)	

2部男子走幅跳決勝

1	山口義紀	国武大	7m45
2	吉永一行	群大	7m29
3	山口純一郎	神大	7m22
4	藤原泰裕	東学大	7m19
5	増田一真	国武大	7m13
6	松永和久	国武大	7m11
7	福田雄介	群大	7m03
8	石見源太郎	明学大	7m01
9	竹内昌男	東大	6m88
10	尾崎翔	東大	6m87
17	武安光太郎	東大	6m59

2部男子三段跳決勝

1	木下大輔	城西大	15m04
2	藤原泰裕	東学大	14m86
3	篠崎健	城西大	14m70
4	福良翔	横国大	14m67
5	永山暢彦	文教大	14m60
6	石田将史	国武大	14m55
7	深代武	城西大	14m53
8	佐野太郎	東大	14m46
16	倉員智瑛	東大	13m82

2部男子走高跳決勝

1	遠藤哲哉	埼大	2m05
2	土屋真悟	東学大	2m00
2	柳佑樹	亜大	2m00
2	長岡康弘	国武大	2m00
5	大谷大志	国武大	2m00
6	深代武	城西大	1m95
6	根岸佑弥	上武大	1m95
6	田村雅樹	山梨大	1m95
6	岩田康弘	東学大	1m95
6	村上孝	日体大専	1m95
6	田中啓	東大	1m95

2部男子棒高跳決勝

1	山本雄也	横国大	4m90
2	柴本鋼平	東情大	4m80
2	佐藤諭	日体大院	4m80
4	鈴木吾郎	早大院	4m60
5	田中悠士郎	国土大院	4m50
6	長谷川京佑	城西大	4m40
6	日向弘承	東学大	4m40
6	木下俊	東農大	4m40
15	大谷真人	東大	4m20

2部男子砲丸投決勝

1	小林志郎	国土大院	16m06
2	大木純也	国武大	14m75
3	相京優也	群大	14m58
4	吉田崇明	国武大	14m24
5	遠藤彰	国武大	13m72
6	高梨雄太	順大院	13m56
7	松本有剛	玉川大	13m19
8	久保田尊士	山梨大	12m84
-	合田隆彦	東大	DNS

2部男子円盤投決勝

1	小林志郎	国土大院	56m35	日本学生新
2	高梨雄太	順大院	45m31	
3	吉田崇明	国武大	41m83	
4	根本良平	上武大	41m50	
5	町田慎	国武大	40m38	
6	比留間浩介	山梨大院	40m08	
7	松本郷志	国武大	39m20	
8	藤田健祐	国土大院	38m85	

10 合田隆彦 東大 37m29

2部男子ハンマー投決勝

1	遠藤彰	国武大	62m28(GR)
2	横野哲郎	国武大	60m32
3	安里瞬	国武大	58m06
4	藤田健祐	国土大院	53m94
5	市浦友也	東学大	52m24
6	横井貴臣	順大院	50m04
7	舩谷直樹	上武大	48m74
8	高橋孝幸	東農大	46m82
15	小笠原義之	東大	42m68
23	庄司宇	東大	31m88

2部男子やり投決勝

1	竹迫寿	早大院	70m16(NGR)
2	和久田隼佑	国武大	67m82
3	中嶋亮太	東学大院	66m71
4	草間秀俊	国武大	65m59
5	中村慎	神大	65m16
6	齋藤聡伸	千葉大院	63m96
7	関根拓也	上武大	61m97
8	熊田友弥	上武大	59m72
21	北川昂広	東大	47m65

2部男子十種競技

1	田中悠士郎	国土大院	6705点
2	大谷大志	国武大	6563点
3	佐藤克憲	国武大	6554点
4	橘京佑	東学大	6277点
5	前田剛	国武大	6146点
6	岩下剛士	都留文大	6116点
7	岩国英昭	立大	5962点
8	塩谷尚之	都留文大	5877点
11	持永新	東大	5492点

2部男子総合

1	国武大	157点
2	城西大	74点
3	国土大院	58点
4	大東大	41点
4	東学大	41点
6	青学大	40点

7	立大	36点
8	駒大	34点
22	東大	8点

2 国公立戦

2.1 監督の言葉

国公立 監督 寺田秋夫

東京地区国公立戦は雨の中5月27日に舎人競技場で行われました。インカレ次週でエース級はあわせてはこず・主幹校でオープン出場も限られ・雨低温と、悪い条件が重なり、「だれた試合にならないとよいが」と懸念しましたが、男子は又しても学大に大きく離されたものの149点と昨年より点数も取り、何より6種目で優勝を取るという形で、1,2番手の選手がそれなりに力を出せてきたのは嬉しい結果です。中でも手動ながら予選を10.8(+0.4m)の100m渡辺、記録は置いておくとして、3人決勝に残した400m、スコルク勝の走幅跳、胸差で差し勝った4継は見事でした。女子は、スーパースターがいなくなり、部員不足にも悩まされ、4継を組むのもやっとでしたが、全員で多(他?)種目出場し奮闘しました。結果は外語大の後塵を拝し3位に終わりましたが、800m、3000mで両方ともすばらしいラストパートを見せた向田の頑張りには特筆に値しました。7大までには1年生2名が復調してもっと戦える体制になると思います。また、多くの1年生がオープンながらデビューを果たし、総じて積極的なレースをし、基本動作がしっかりしているので将来が楽しみです。温かい目で見守って行っていただきたいと思います。

2.2 主将の言葉

主将 竹内昌男

結果的には例年通りの位置。しかし、今年の国公立戦は大会運営主幹ということで主力選手が普段通りに出場できなかった種目があったことを考えると、結果以上の何かを得ることが出来たのではないかと思います。この試合で表面化したのは、層の厚い種目とそうでない種目との差です。具体的には、主力を欠くなかでも点数

を稼げる種目がある一方で、主力を出しても思うように点の取れない種目。その弱点を補強していくことこそ、これからの対校戦での勝利へのポイントとなることは間違いありません。各選手が複数種目を視野に入れていくこと、また新入部員をうまく層の薄い種目に補充していくことがこの弱点強化になると思います。それを踏まえ、次回の対校戦となる四大戦は七大戦の前哨戦として総力戦で臨むつもりです。

2.3 女子主将の言葉

女子主将 向田恵

今年の国公立戦は時折激しい雨の降る中、舎人陸上競技場にて行われました。ここ数年国公立戦は学芸大が頭一つ抜きん出ていて東大は2位または3位につけるとというのが常だったのですが、今年は東大の深刻な女子部員不足に加え他大学の女子部員が増加してきたこともあり、東大はお茶の水大学に1点差で敗れて4位という結果に終わりました。内容を見ましても選手を出せない種目や専門外の選手を出場させた種目が多く、課題が多く残った試合でした。今後は七大戦に向けて弱い種目の強化、新入生の育成に努めていきたいと思います。最後になりましたが悪天候の中応援に駆けつけてくださったOB・OGの方々、ありがとうございました。

2.4 試合経過

トラック

9:30 男子400m 予選

1組4レーンに伊勢田(4年)の出場。関カレのマイルを走った勢いそのままに、好記録が望まれた。スタートして無難に200mまで進む。後半の200mは持ち前の持久力で、他に争う者もなく、51"6の1着でゴール。決勝に望みが繋がる走りであった。2組5レーンに深澤(2年)の出場。今季5月頭に自己ベストを更新し、勢いに乗る深澤の登場。スタート直後の第1曲走路では普段通り淡々とした入りをみせバックストレートに入る。1つ外のレーンの

選手を抜かずもインレーンの格上の選手には追い抜かれて第2曲走路へ。ここで深澤を含む上位3選手が抜け出す。深澤は先頭の選手に必死にくらいつくもホームストレートではじりじりと引き離され、51"5の2着でフィニッシュ。決勝進出を果たし最低限のノルマは達成した。3組5レーンに今村(3年)の出場。今シーズン何度もベストを更新しているだけに、50秒台が期待された。スタートするも、いきなり内側の速い選手に抜かれる。しかし、他の選手は引き離す。ラスト100m。すぐ前方に選手がいた。今村の持ち前のスピードを持ってすれば抜かせるはずであったが、本日はキレを欠いていた。結局競り負け、52"0の3着でゴール。決勝での自己ベストの更新が期待された。

9:50 男子100m 予選

1組4レーンに渡辺(1年)の出場。ルーキーながら4月から連戦が続いて疲労もたまっており、この試合ではそれなりの結果を出して無難にまとめたいところ。まずは予選を軽く通過したい。レースはスタートから飛び出し、滑らかな加速で中盤につなげることができた。この時点で頭一つ抜け出して、終盤も失速することなく10"8の1着で予選通過。このとき風は追い風0.8m。雨の降る悪条件の中での記録であり、決勝に期待ができる内容であった。2組2レーンに福田(2年)の出場。福田は初めての対校戦であり、今後の活躍につなげる走りをしたい。そのためにも決勝に進出して点を取りたいところ。出だしはなかなかの好スタートであったが、中盤で先頭2人との接戦になり硬さが出てしまう。そのため後半は徐々に遅れだし、結局11"5の3着でフィニッシュ。このとき風は追い風0.7mであった。予選落ちに終わったが雨の中としては悪くないタイムであり、後半の課題を克服することで今後の活躍が期待できそうである。3組3レーンに相川(4年)の出場。今年は春先の怪我

の為に遅れた相川だが、マイルリレーなどでは徐々に本来のパフォーマンスを取り戻しつつあり、今回も良い結果を出して専門の走幅跳につなげたい。力的には難なく予選通過できるはずである。相川はまずまずのスタートを見せるが走りにいつものキレがなく、中盤からの伸びを欠いた。そのまま後半まで先頭との差がじりじりと広がってしまい、11"4の3着でゴール。このとき風はなかった。抽選で決勝進出を逃し、悔やまれる結果となった。

10:20 女子100m 予選

2組1レーンに堀越(D1)の出場。堀越にとっては今シーズン初めての対校戦であり、いい結果を出してこれからのシーズンに向け幸先良いスタートを切りたいところ。まずは決勝進出を確保したい。無難なスタートをきるが中盤へのつながりがよくなく、トップスピードに乗り切ることができない。ここで順位を下げてしまったが後半よく粘って食らいつき、その順位を維持してゴール。4着13"8で決勝進出を決めた。風は向かい風0.8mであった。不満の残る内容であったが決勝で修正し、巻き返しを期待したい。

10:50 男子110mH タイムレース決勝

1組5レーンに堀内(2年)の出場。序盤は4番手につき、3番手を追いかける。しかし、9台目のハードルで足が合わずに詰まってしまう、失速。そのまま19"5の4着でゴール。このとき風は向かい風1.5mであった。2組3レーンに梅沢(4年)、4レーンに尾崎(2年)の出場。尾崎はスタートと同時に頭一つ抜け出すも、5レーンの学芸大の選手の追い上げがすさまじく、中盤で追い抜かれてしまう。しかし食い下がり、ゴール直前で巻き返し、15"2の1着でゴール。一方、梅沢はスタート直後から3番手につけ、無難な走りで順位を保ったまま15"8の3着でゴール。このとき風は向かい風2.1mであった。タイムレース決勝の結果、尾崎1位、梅

沢3位、堀内8位で、東大は15点を獲得した。

11:00 男子 200m 予選

1組5レーンに今村(3年)の出場。順調にスタートを切り、第2曲走路を出た時点で3番手。ホームストレートで追い上げるも及ばず、23"6の3着でゴール。このとき風は向かい風2.0mであった。2組4レーンに梶岡(2年)の出場。第2曲走路を出た時点で4着。6レーンの選手に追い詰められるも、その順位を保ったまま23"7の4着でゴール。このとき風は向かい風1.6mであった。3組2レーンに田苗(3年)の出場。順調にスタートし、インレーンから追い上げるも、第2曲走路を出た時点で4番手。その後粘り強い走りを見せるも、順位をさらに落とし23"9の5着でゴール。このとき風は向かい風2.1mであった。3人とも決勝進出はならなかった。

11:20 男子 800m 予選

1組4レーンに割沢(4年)の出場。激しく雨が降りしきる中でのスタートとなった。割沢は落ち着いたスタートを見せ、全体を見渡せる5番手でレースを進める。残り300メートルから熾烈な1着争いが始まり、割沢は最後の直線で勝負にできるも上体に力みが見られ、力及ばず2'03"7の4着に終わった。2組2レーンに小野(4年)の出場。一転して雨がやみ、記録が期待できる状況になり、決勝進出の期待が高まる。小野も割沢同様落ち着いたスタートを見せ、7番手でレースを進める。徐々に集団のペースが上がる中、きっちり集団につけて最後の直線に望みをかける。しかし、スパートが決まり切らず無念の5着でゴール。ところがスタート直後にラインを踏んでいたことを指摘され、悔しいDSQ、失格に終わった。3組5レーンに黒沢(4年)の出場。関東インカレに出場した疲れが心配されたが、割沢小野と同じく、落ち着いたスタートを見せて5番手でレースを進める。しっかり先頭をマークできる位置

を維持し、残り200メートルから華麗なペースアップを見せる。最後の直線で先頭に踊り出ると、追い続ける3番手の選手の様子を確認するなど余裕を見せて2'01"7の2着でゴールし、見事決勝に進出した。終止リラックスした走りをし、格の違いを感じさせた。

12:00 男子 100m 決勝

6レーンに渡辺(1年)の出場。絶好のスタートを切り、序盤ではトップに立つ。しかし中盤以降力んでしまい、伸び悩む。結局順位を2つ落として11"22の3位でゴール。このとき風は向かい風0.5mであった。優勝の期待もかかっていただけに、悔しい結果となったが、ここで東大は6点を獲得した。

12:10 男子 400m 決勝

2レーンに今村(2年)、6レーンに伊勢田(4年)、7レーンに深澤(2年)の出場。3人が決勝に進んでおり、大量得点を狙える。今村は400m予選と200m予選の疲れがあっただけか、序盤から精彩を欠いた走りですべて最後尾につける。その後も伸びることはなく、51"89の7位でゴール。伊勢田はバックストレートを抜けるまで抑え気味のレース展開。その後第2曲走路に入ってから素晴らしい走りを見せ、トップの選手に食い下がり、50"72の3位でゴール。深澤は序盤から快調な走りを見せるも、中盤で失速してしまう。しかし、終盤で意地の追い上げを見せ、結局51"43の5位でゴール。東大は12点を獲得した。

12:25 女子 3000m 決勝

向田(4年)の出場。朝から降り続いた雨が上がり、比較的走りやすい気候でのレースとなった。抑え目気味のスタートから、400mの通過は84秒。集団は早くも分かれ、向田は学芸大の選手3人と先頭集団を形成した。1000mはそのままのペースで3'31で通過。その後1600mで先頭の選手が交替するとレースが動き、向田と学芸大の西村選手との一騎打ちとなる。向田が何度か抜こうと仕掛けるも、西村選手がそれ

に応じてペースをあげる白熱した展開となり、抜き切れないままラスト1周を迎える。向田はここで西村のスパートに離されかけるが、残り200mから猛然と追いつき、応援席を沸かせる。しかし、惜しくも胸の差で届かず、2着でのフィニッシュ。記録は10'25"92であった。惜しくも優勝は逃したものの、勝利への執念を感じさせる見事なレースだった。

12:45 男子1500m タイムレース決勝

タイムレース決勝となった男子1500mの2組目に平原(4年)、石原(3年)、斉藤(3年)が出場。石原・斉藤は先頭集団に、平原はそれに遅れてスタートした。互いに牽制しあってきたため400mは66秒、800mは2分12秒で通過。そこから石原が猛スパートをかけ、勝負に出る。やや出遅れた斉藤は学芸大の選手との2位争いを展開する。平原は先頭集団からは遅れてしまう。石原はそのまま独走し4分03秒76で見事に1着を獲得。斎藤は残り150mで学芸大の選手に抜かれたものの、4分09秒10の4着でゴールし、安定感を見せた。出遅れた平原は4分20秒62の8着となった。タイムレースの結果、石原が1位、斉藤が4位、平原が10位となり、全体では13点を獲得した。

13:20 女子100m 決勝

8レーンに堀越(D1)の出場。堀越はスタートで出遅れてしまう。序盤から中盤にかけてその差を埋めようとするも足が前に上がらない。上手く動きが合み合わずにスピードに乗れないことに加え、強い向かい風もあって他大の選手との差は開いてしまう一方。中盤以降、隣を走る7番手の選手に追いつくも最後までスピードに乗り切ることが出来ないまま走り終わってしまう。結果は14"19の8位。このとき風は向かい風2.0mであった。自分の思うとおりに走る事の出来ない何とも悔しい結果となってしまった。

13:30 男子400mH タイムレース決勝

1組4レーンに坂田(4年)が出場。滑り出しは順調、確実なハードリングで3番手につける。第2曲走路以降、疲れて失速する1、2番手の選手との差を徐々に詰めていく。余力あったか、ホームストレートに入ったところでスパートをかけて2番手に立ち、トップを猛然と追いつける。しかし、後一步のところまで及ばず、61"80の2着でフィニッシュした。2組4レーンに伊勢田(4年)、6レーンに深澤(2年)の出場。レース中、電通大の選手が一人先を行く。伊勢田は前半から中盤までのハードルにおいてインターバルを着実に刻むクリアで加速し、それを追う展開。しかし6台目を越え、中盤以降になるとインターバルのリズムが徐々に変わって行き第4コーナーを抜ける付近の7台目で足が合わずに詰まったハードリングとなってしまった。ホームストレートに入った時点で後続は十分に引き離しており傍目には余裕と思える試合となるが、終盤は記録を狙っていくには苦しい走り。結果は57"32の2着。大きなミスは無かったものの、中盤から後半にかけてのハードリングが詰まることによって生じるロスを解消することが今後の課題となる。深澤は初の400mH。400mでは5月上旬に自己ベストを出している。1台目から歩数が合わずスピードに乗り切れない苦しいレースとなる。しかし最後はスプリントで意地を見せ2人かわし59"39の3着でゴール。タイムレース決勝の結果、伊勢田が2位、深澤が3位、坂田が7位で、東大は15点を獲得した。

13:50 女子800m 決勝

向田(4年)、日下(1年)の出場。日下は入部後初のレースに対校選手として臨むこととなった。スタート後他大の選手2名が飛び出すも、日下はそれに劣らぬスピードで3位につける。一方、向田は3000mでの力走後のレースとなったためか、やや落ち着いたスタートを見せ日下の後方5mほど離れて4

位につける。レースは進み、そのままの順位でフィニッシュを迎えるかに見えた。しかし、3位入賞を目指す向田はバックストレートで猛然と日下を追い上げる。日下も粘りを見せるが、向田がゴール直前で日下をとらえ、向田が2'27"26の3位、日下が2'27"59の4位でゴール。日下は受験後のプランクを感じさせない走りを見せ、向田は3000mに引き続いての入賞と、充実のレースになった。今後も2人が切磋琢磨し、さらに記録を伸ばして行くことが期待される。

13:55 男子 800m 決勝

800m 決勝に黒澤(4年)が出場。予選での見事な走りから、高得点の期待が高まる。予選とは異なり、黒澤は積極的に前に出て、200mをトップで通過。そこからは先頭を譲り、団子状態の集団の2番手で400mを通過する。400m地点での通過タイムは61秒とスローペースで勝負に徹したレースになる。500mから一気にペースが上がるも、黒澤はうまく流れにのり、ラスト200mを過ぎたところからスパートをかける。先頭に踊り出た黒澤は、そのまま後続選手の猛追をかわし、2'00"46で見事に優勝を飾った。本格的に中距離種目に取り組むようになってから間もないのにも関わらず、主力選手として見事な活躍ぶりを見せており、今後の対校戦でのさらなる飛躍が期待される。

14:05 男子 4 × 100mR タイムレース決勝

5レーンに田中啓太(3年)-渡辺(1年)-相川(4年)-尾崎(2年)の走順で出場。1走田中は無難なスタートを切り中盤を快調なスピードで飛ばしバトンを渡辺につなぐ。しかし、僅かに飛び出るタイミングが早くなってしまった渡辺はバトンを着実に渡すためにややスピードを落とす。学芸大学と差のついた感のあるバトンパスであったが、無事にバトンが渡った後は着実な走りですの相川につないだ。100m、

走幅跳、4 × 100mR、4 × 400mRと今大会で最も出場種目数の多い相川は走幅跳の競技の合間に3走をこなす。多種目出場の疲れを見せない順調な走りですの学芸大学にくらいついてアンダーパスで4走の尾崎につないだ。バトンが渡った時点での学芸大学との差は約3m程度。相川とは対照的に今大会においては110mHと4 × 100mRに種目を絞ってきた尾崎は出だしからスピードのある走りを見せる。そこから徐々に差を詰めていく。60m付近に構える応援席の前を通過した時点での差はさらに縮まり応援も加速する。着々と差を詰め続け最後まで諦めない走りを見せた尾崎は、勝利を確信しスピードを緩めた学芸大学の横でフィニッシュを決めた。100分の1秒差で逆転する42"59で1着、タイムレース決勝の結果全体でも1位であった。

15:20 男子 5000m 決勝

片岡、岡田、千島の4年トリオの出場。15分台前半の記録が期待される。400m過ぎに2選手が飛び出すも、14分台の記録を持つ廣澤(学芸)が前を追わなかったため、先頭とは一時40m以上離れる。3位集団を岡田が積極的に引っ張り、先頭との差を詰めていくが、2500mでさらにペースが上がると集団が崩れ、岡田はここで脱落。3400mで集団が先行の2選手を吸収するものの、片岡、千島は徐々に集団から遅れてしまう。結局、上位争いに全く絡めないまま、片岡は15'45"8の8位、岡田は15'51"0の9位、千島は15'52"0の10位に終わった。3選手とも自己ベストから10秒程度とまずまず健闘したが、狙っていた記録には程遠く、上位と勝負するには至らなかった。最上級生としての意地を見せてもらいたい。

15:40 女子 4 × 100mR 決勝

2レーンに小原(4年)-宮崎(3年)-日下(1年)-向田(4年)の走順で出場。小原は怪我明けかつ教育実習でなかなか練

習ができないなかエースの貫禄をみせスタートから快調に飛ばし外のレーンの選手を抜き2番手で宮崎へ。宮崎も入って間もないにも関わらず落ち着いた走り、3・4番手をつなく。3走目下は1年中長距離らしからぬスピードでその順位を保ち4走向田へ。向田も中長距離選手ながら粘りの走りを見せるが、順位を上げることはできず54'95の4位でゴール。短距離の選手は少ないなかバトンミスもなく今後を期待を抱かせるレースだった。

15:45 男子4×400mR タイムレース決勝

6レーンに深澤(2年)-伊勢田(4年)-梶岡(2年)-相川(4年)の走順で出場。1走の深澤はスタートこそ少し遅れたものの、良い中間疾走を見せ、さらにホームストレートに入ってから粘りに粘り、東学大とほぼ同着のトップでバトンを渡した。2走の伊勢田はアウトコースだったこともあり序盤で抜かれるが、そこからは400で50秒台を出した力を発揮し差を保ったままバトンを渡す。3走の梶岡は、序盤から積極的な走りを見せ、200m通過するまでに一人をかわす。いつもであれば、ここで失速するところであるが、今回は必死にくらいつき2、3位争いをしながらバトンを渡す。4走の相川は序盤相変わらずのリラックスした走りで見せ、後半への期待を持たせる。しかし、この日の相川は多種目出場していたこともあってか、いつものような終盤における加速は見られず、最後は2位争いに敗れ、3'25"14の3着でゴール。タイムレース決勝の結果、全体でも3位であった。今回は、深澤、伊勢田、相川が個人で多種目出場して疲労がたまっていたこともあって、満足のいくタイムを出すことはできなかった。しかし、個人の力は着実に高まってきているので、今後のレースには期待が持てる。

フィールド

9:30 男子砲丸投 決勝

小林(3年)、庄司(3年)、寺島(1年)の出場。雨が降り、寒いコンディションの中競技が開始される。寺島は1投目以降は記録を伸ばせず1投目の記録6m70でベスト8漏れの10位となる。一方、庄司と小林は順調にベスト8に進む。庄司は前半安定した投げを見せ、6投目に10m09を投げて5位となった。小林は1投目から段々記録を伸ばしていき、5投目の10m22で4位となった。

9:30 女子砲丸投 決勝

清水(4年)、宮崎(3年)の出場。雨が降る天候の中、専門外の2人にとっては難しい試合となった。清水は中距離パート員であるが、学業のための休部から復帰したばかりであり今回は砲丸投に出場した。中距離離れしたパワーで3投目に4m85を投げ、あわやベストエイトというところだったが、惜しくも9位でエイト漏れであった。宮崎は陸上初心者ながら棒高跳に興味を持ち今冬に入部した3年生である。勝負強くベストエイトに残り、5投目に5m23に記録を伸ばして8位となった。この種目で対校戦デビューとなった宮崎の今後の活躍に期待したい。

9:30 男子三段跳 決勝

佐野(4年)、倉員(3年)、武安(2年)の出場。雨が降り、比較的湿度が低い中での試合となった。関東インカレ直後ということもあり、疲労が抜けきらないこともあってか、3人に限らず全体的に記録は低迷していた。最終的には、武安が13m49で4位、倉員が13m43で5位、佐野が12m97で6位だった。やはり、学芸大勢には勝つことができなかったが、6月いっぱいをかけて調子をあげ、来る4大戦では一泡ふかせられるように、練習に邁進してほしい。

10:00 男子走高跳 決勝

持永(4年)、小福田(2年)、高橋(2年)

の出場。強い雨の中での試合となった。持永と小福田は、コンディションが悪いために、高橋は初心者で初めての試合であるために、全員 1m50 からスタートした。高橋は背面跳びはしっかりと出来ていないものの、何とか 1 跳目で 1m50 をクリア。しかし、1m55 は背面跳びができないために 3 跳とも失敗。結果 1m50 の 10 位であった。小福田と持永は 10cm ずつバーの高さを上げていく予定であったが、小福田は 1m50 を 1 跳目で難なく成功するも、足首の怪我の痛みが再発し、ここで棄権。高橋と同様 10 位で、点を取ることが出来なかった。持永は 1m50、1m60 を挟み跳びで 1 跳目で成功。1m70 も難なくクリアするも、1m80 は高さが足りず失敗。自己ベスト更新はならなかった。結果、持永は 1m70 で 7 位であった。

11:30 男子棒高跳 決勝

持永(4年)、木村(3年)、大谷(2年)の出場。激しい雨と向かい風のため1時間ほど遅れて試技が開始された。木村は初めの高さの 3m00 をパス、3m20 から跳び始める。しかし3本ともに助走に勢いが無くポールが立たず3回とも失敗してしまう。持永は 3m40 から試技開始。3m40、3m60 は高さのある跳躍でしっかり跳んでいく。3m70 も高さがあったものの流れた跳躍になり、ここで試技終了。大谷は雨のため中助走で 3m60 から試技開始。3m60 の 1 回目はアップライトが合わず失敗するが、2 回目で成功。続く 3m80 は 1 回目で成功し、ここで 1 位が確定したので 4m30 にバーを上げたが高さが足りずにここで試技終了。結果、大谷が 4m00 で 1 位、持永が 3m60 で 3 位、木村が記録なしであった。

13:00 男子円盤投 決勝

田上(4年)、庄司(3年)、小林(3年)の出場。弱い追い風が終始吹いており、あまりよい記録は望めない。田上は、1 投目を慎重に残したあと、2 投目に 27m71 の好記録を出した。しかし、そ

の後ファールが続き、記録を伸ばすことはできなかった。順位は 7 位だった。庄司は集中して投げた 1 投目で 30m06 のシーズンベストを投げ前半を終え 3 番目につけた。ところが、後半、学芸大の 2、3 番手に相次いで抜かれ 5 位まで順位を落として試合を終えた。小林は、最初なかなかタイミングがとれず苦労したが、3 投目までになんとか建て直し、26m32 を投げた。この記録でなんとかベスト 8 に滑り込んだが、後半、記録が上回る投擲はなく 8 位で試合を終えた。

13:30 男子走幅跳 決勝

竹内(4年)、相川(4年)、武安(2年)の出場。あいにくの肌寒い気候により、記録を狙にくい状況下での競技開始。ライバルと目されていた東学大の主力陣が出場しなかったため、上位独占が所望されていた。そんな中、全日本インカレの標準記録(7m45)突破を目論む竹内は関東インカレからの気持ちの緩みも見せず、果敢に記録を狙いにゆく。練習跳躍から 7m を越える跳躍を連発するもファウルが重なり、前半の試技は 2 跳目の 6m91 に留まる。後半も手拍子を積極的に求め、あくまでも記録を狙いに行くが、雨天に阻まれて記録を伸ばせなかった。全力の夢は潰えたものの、これからもその力強い跳躍で主将として活躍してくれるだろう。武安は三段跳で身体が温まっていたこともあり、1 跳目からその大きな身体をフル稼働させた踏み切りをみせる。前半で 6m69 をマークして上位を確定させると記録を伸ばしにかかるが、竹内同様ファウルが増え、そのまま終了となった。標準記録を越えていながら、関東インカレに出られなかった相川は、今季初の走幅跳対校選手。始終足あわせに苦しむが、跳躍自体は安定していて 6m40 台を連発。着実に 6m47 を残した。記録こそ低調に終わったものの、難なく 1,2,3 位を独占した 3 選手は期待通りの働きを見せてくれた。

13:30 女子走幅跳 決勝

堀越 (D1)、宮崎 (3年) の出場。宮崎はまだ経験が浅いため、思い切った踏切が出来ず3回目の3m49が最高でエイト漏れであった。これからはスピードアップした助走からの思い切った踏切が課題となるだろう。堀越はさすがジャンパーだけあってしっかりとした踏切ができ、5回目に4m53を跳び5位となった。これからもますますの活躍が期待される。

2.5 試合結果

第54回東京地区国公立大学対校陸上競技大会
於 舎人公園陸上競技場 (H16.5.22)

100m 決勝 (-0.5)			
1	立石浩平	電通大	11"08
2	瓦田宗大	一橋大	11"08
3	渡辺裕太	東大	11"22
4	林賢作	農工大	11"30
5	高橋修平	東学大	11"37
6	染谷彰	医歯大	11"43
7	河添広	東学大	11"45
8	河野雄飛	首都大	11"79

100m 予選			
1組 (+0.4)			
1	渡辺裕太	東大	10"8
2組 (+0.7)			
3	福田篤	東大	11"5
4組 (± 0.0)			
3	相川啓佑	東大	11"4

200m 決勝 (+1.6)			
1	瓦田宗大	一橋大	22"0
2	立石浩平	電通大	22"3
3	河添広	東学大	22"7
4	染谷彰	医歯大	22"8
5	高橋修平	東学大	22"8
6	鈴木楓太	一橋大	23"3
7	河野雄飛	首都大	23"4

8 桑原利明 首都大 24"3

200m 予選

1組 (-2.0)			
3	今村岳	東大	23"6
2組 (-1.6)			
4	梶岡利之	東大	23"7
3組 (-2.1)			
5	田苗真也	東大	23"9

400m 決勝

1	鈴木大地	東学大	48"41
2	小林大祐	電通大	49"80
3	伊勢田明弘	東大	50"72
4	桑原利明	首都大	50"98
5	深澤真楠	東大	51"43
6	岡本弦一郎	一橋大	51"47
7	今村岳	東大	51"89
8	田中健次	東学大	52"02

400m 予選

1組			
1	伊勢田明弘	東大	51"6
2組			
2	深澤真楠	東大	51"5
3組			
2	今村岳	東大	52"0

800m 決勝

1	黒澤徹也	東大	2'00"46
2	三宅佑哉	首都大	2'00"82
3	朝長俊晴	電通大	2'01"18
4	唐金拓矢	東学大	2'01"33
5	藤村弘太	農工大	2'01"84
6	服部康平	一橋大	2'02"14
7	斉藤拓	一橋大	2'02"17
8	緒方甫哉	東外大	2'04"37

800m 予選

1組			
4	割沢高行	東大	2'03"6
2組			
-	小野剛志	東大	DSQ

3組

2 黒澤徹也 東大 2'01"7

1500m タイムレース決勝

1	<u>石原宏尚</u>	東大	4'03"76
2	<u>廣澤務</u>	東学大	4'05"43
3	<u>伊藤拓也</u>	東学大	4'05"52
4	<u>斉藤俊</u>	東大	4'09"10
5	<u>花田慶太</u>	電通大	4'13"37
6	<u>浅川健</u>	東学大	4'14"28
7	<u>阿部敏之</u>	東学大	4'16"73
8	<u>若林賢司</u>	農工大	4'17"03
10	<u>平原唯灯</u>	東大	4'20"62

5000m 決勝

1	<u>奥山和彦</u>	東学大	15'21"9
2	<u>廣澤務</u>	東学大	15'28"0
3	<u>富田哲朗</u>	一橋大	15'30"5
4	<u>岩淵順平</u>	海洋大	15'36"4
5	<u>栗原龍太</u>	東学大	15'39"9
6	<u>小林礼明</u>	電通大	15'40"0
7	<u>中西如人</u>	東工大	15'41"0
8	<u>片岡哲朗</u>	東大	15'45"4
9	<u>岡田良平</u>	東大	15'51"0
10	<u>千島悠司</u>	東大	15'45"4

110mH タイムレース決勝 (-1.5,-2.1)

1	<u>尾崎翔</u>	東大	15"2
2	<u>藤原泰裕</u>	東学大	15"3
3	<u>梅沢啓</u>	東大	15"8
4	<u>田村伸行</u>	電通大	16"2
5	<u>太刀川和也</u>	東学大	17"0
6	<u>岩田泰弘</u>	東学大	17"2
7	<u>伊藤雅</u>	東学大	18"2
8	<u>堀内敦史</u>	東大	19"5

400mH(タイムレース決勝)

1	<u>田村伸行</u>	電通大	54"53
2	<u>伊勢田明弘</u>	東大	57"32
3	<u>深澤真楠</u>	東大	59"39
4	<u>門脇裕太</u>	東学大	59"54
5	<u>前島靖之</u>	東学大院	59"92
6	<u>織江章裕</u>	東工大	61"37

7 坂田祐輔 東大 61"808 庄村光太郎 一橋大 62"71

4 × 100mR タイムレース決勝

1	東大	42"59
	(田中-渡辺-相川-尾崎)	
2	東学大	42"60
3	一橋大	43"26
4	電通大	43"74
5	首都大	44"68
6	医歯大	44"82
7	東工大	45"03
8	東外大	45"93

4 × 400mR タイムレース決勝

1	東学大	3'21"04
2	電通大	3'24"19
3	東大	3'25"14
	(深澤-伊勢田-梶岡-相川)	
4	一橋大	3'27"95
5	農工大	3'31"11
6	東外大	3'32"96
7	東工大	3'33"25
8	海洋大	3'48"97

走高跳決勝

1	<u>土屋真悟</u>	東学大	2m01
2	<u>紀平優</u>	東学大	1m92
3	<u>石塚理博</u>	東学大	1m92
4	<u>増田裕一</u>	東学大	1m89
5	<u>石川順章</u>	一橋大	1m86
6	<u>織江章裕</u>	東工大	1m80
7	<u>持永新</u>	東大	1m70
8	<u>三上天頭</u>	東外大	1m70
10	<u>小福田大輔</u>	東大	1m50
10	<u>高橋昌紀</u>	東大	1m50

棒高跳決勝

1	<u>大谷真人</u>	東大	4m00
2	<u>橋晃嗣</u>	東学大	3m70
3	<u>持永新</u>	東大	3m60
4	<u>門脇裕太</u>	東学大	3m60
5	<u>伊藤雅</u>	東学大	3m00

- 木村 剛 東大 NM

走幅跳決勝

1	<u>竹内 昌男</u>	東大	6m91
2	<u>武安 光太郎</u>	東大	6m69
3	<u>相川 啓佑</u>	東大	6m47
4	<u>増田 裕一</u>	首都大	6m42
5	<u>伊藤 雅</u>	東学大	6m40
6	<u>滝田 和也</u>	東学大	5m99
7	<u>山田 貴志</u>	東学大	5m90
8	<u>植竹 敦</u>	東工大	5m85

三段跳決勝

1	<u>藤原 泰裕</u>	東学大	14m00
2	<u>木村 友紀</u>	東学大	13m95
3	<u>増田 裕一</u>	首都大	13m71
4	<u>武安 光太郎</u>	東大	13m49
5	<u>倉員 智瑛</u>	東大	13m43
6	<u>佐野 太郎</u>	東大	12m98
7	<u>植竹 敦</u>	東工大	12m85
8	<u>滝田 和也</u>	東学大	12m78

砲丸投決勝

1	<u>市浦 友也</u>	東学大	11m46
2	<u>藤原 康隆</u>	東学大	11m44
3	<u>武川 晋也</u>	一橋大	10m29
4	<u>小林 宗隆</u>	東大	10m22
5	<u>庄司 宇</u>	東大	10m09
6	<u>定成 俊政</u>	一橋大	9m90
7	<u>石川 順章</u>	一橋大	9m70
8	<u>深山 直記</u>	農工大	8m61
10	<u>寺島 孝明</u>	東大	6m70

円盤投決勝

1	<u>市浦 友也</u>	東学大	39m35
2	<u>武川 晋也</u>	一橋大	31m79
3	<u>木村 友紀</u>	東学大	30m78
4	<u>藤原 泰隆</u>	東学大	30m28
5	<u>庄司 宇</u>	東大	30m06
6	<u>定成 俊政</u>	一橋大	27m86
7	<u>田上 遼</u>	東大	27m71
8	<u>小林 宗隆</u>	東大	26m32

トラック順位

1	東学大	101
2	東大	84
3	電通大	62

フィールド順位

1	東学大	96
2	東大	65
3	一橋大	25

総合順位

1	東学大	197
2	東大	149
3	一橋大	69

100m 決勝 (-2.0)

1	<u>北島 洵子</u>	東学大	12"63
2	<u>吉田 実央</u>	東学大	13"61
3	<u>三ツ松 祥子</u>	東外大	13"90
4	<u>松田 尚子</u>	首都大	13"91
5	<u>池田 伸子</u>	お茶大	13"96
6	<u>草川 鮎子</u>	東外大	14"10
7	<u>上原 藍</u>	一橋大	14"13
8	<u>堀越 彩香</u>	東大	14"19

100m 予選

2組 (-0.8)			
4	<u>堀越 彩香</u>	東大	13"8

800m 決勝

1	<u>大友 稚弘</u>	東学大	2'20"06
2	<u>香川 信子</u>	東学大	2'23"54
3	<u>向田 恵</u>	東大	2'27"26
4	<u>日下 桃子</u>	東大	2'27"59
5	<u>羽田 美保</u>	医歯大	2'31"10
6	<u>沢野 真梨子</u>	お茶大	2'35"97
7	<u>桑野 李沙</u>	お茶大	2'41"19
8	<u>山崎 七愛</u>	農工大	2'43"79

3000m 決勝

1	<u>西村 明真</u>	東学大	10'25"62
2	<u>向田 恵</u>	東京大	10'25"92
3	<u>牧原 幸子</u>	東学大	10'40"63

4	松岡 奈々子	東外大	11'06"41
5	桑名 李沙	お茶大	11'13"23
6	山崎 七愛	農工大	11'48"81
7	藤野 りつこ	東外大	12'43"85
8	小柳 弥生	お茶大	13'16"27

4 × 100mR 決勝

1	東学大	48"69
2	東外大	54"21
3	一橋大	54"74
4	東大	54"95
(小原-宮崎-日下-向田)		
5	お茶大	56"11
6	医歯大	56"71

走幅跳決勝

1	石橋 久美子	東学大	5m22
2	濱田 悠希	東学大	5m01
3	田中 紀子	首都大	4m89
4	松田 尚子	首都大	4m75
5	堀越 彩香	東大	4m53
6	野村 優里	東外大	4m38
7	本村 恭子	東外大	4m29
8	佐々木 章乃	お茶大	3m81
9	宮崎 彩	東大	3m49

砲丸投決勝

1	庄司 安那	東学大	9m41
2	山田 清香	東学大	9m09
3	山盛 詳子	東学大	7m87
4	田中 紀子	首都大	7m71
5	松元 佳織	首都大	6m05
6	本村 恭子	東外大	6m03
7	廣瀬 直美	お茶大	5m58
8	宮崎 彩	東大	5m23
9	清水 里紗	東大	4m85

トラック順位

1	東学大	66
2	東外大	33
3	お茶大	27
4	東大	24

フィールド順位

1	東学大	30
2	首都大	20
3	東外大	8
5	東大	5

総合順位

1	東学大	96
2	東外大	41
3	お茶大	30
4	東京大学	29

3 2006年度部内5傑 2006.5.27. 現在

男子 100m

1	渡辺 裕太 (1年)	10"8(+0.4)	5.27
2	田中 啓太 (3年)	11"20(+1.9)	5.3
3	相川 啓祐 (4年)	11"38(± 0.0)	4.23
4	斉藤 拓海 (2年)	11"45(+1.4)	5.3
5	瀧山 健 (4年)	11"57(+1.3)	4.23

男子 200m

1	渡辺 裕太 (1年)	22"16(+1.9)	5.20
2	今村 岳 (3年)	23"6(-2.0)	5.27
3	田中 啓太 (3年)	23"87(-0.2)	4.23
4	梶岡 利之 (2年)	23"7(-1.6)	5.27
5	田苗 真也 (3年)	23"9(-2.1)	5.27

男子 400m

1	深澤 眞楠 (2年)	50"72	5.5
1	伊勢田 明弘 (4年)	50"72	5.27
3	今村 岳 (3年)	51"21	4.29
4	小澤 聡 (3年)	51"80	5.3
5	梶岡 利之 (2年)	52"30	5.3

男子 800m

1	新井 邦生 (4年)	1'53"50	5.21
2	小澤 聡 (3年)	1'57"48	5.5
3	黒澤 徹也 (4年)	1'58"73	4.23
4	斉藤 俊 (3年)	2'01"55	4.1
5	小野 剛志 (4年)	2'03"11	4.23

男子 1500m

1	石原 宏尚 (3年)	3'59"84	4.2
2	黒澤 徹也 (4年)	3'59"87	4.29
3	斉藤 俊 (3年)	4'01"56	4.29
4	新井 邦生 (4年)	4'04"33	4.2
5	平原 唯灯 (4年)	4'15"79	4.29

男子 5000m

1	石原 宏尚 (3年)	15'27"55	4.29
2	片岡 哲朗 (4年)	15'40"53	4.29
3	千島 悠司 (4年)	15'50"51	4.29
4	岡田 良平 (4年)	15'51"0	5.27
5	梶井 駿介 (2年)	16'31"52	4.23

男子 110mH

1	尾崎 翔 (2年)	15"22(+1.2)	5.3
2	梅沢 啓 (4年)	15"75(+0.3)	4.8
3	持永 新 (4年)	16"98(-0.7)	5.14
4	堀内 敦史 (2年)	19"5(-1.5)	5.27

男子 400mH

1	伊勢田 明弘 (4年)	57"32	5.27
2	深澤 眞楠 (2年)	59"39	5.27
3	坂田 祐輔 (4年)	61"80	5.27
4	門脇 啓太 (2年)	62"50	4.1

男子 3000mSC

1	石原 宏尚 (3年)	9'24"40	5.13
2	岡田 良平 (4年)	9'55"01	4.8
3	山崎 大 (4年)	10'24"9	4.8
4	加藤 宏平 (2年)	11'04"9	4.8

男子 走幅跳

1	竹内 昌男 (4年)	7m18	5.5
2	尾崎 翔 (2年)	7m12	4.23
3	武安 光太郎 (2年)	7m01	4.29
4	相川 啓佑 (4年)	6m76	4.23
5	佐野 太郎 (4年)	6m40	5.27

男子 三段跳

1	佐野 太郎 (4年)	14m46	5.14
2	倉員 智瑛 (3年)	14m03	4.8
3	武安 光太郎 (2年)	13m49	5.27
4	深澤 眞楠 (2年)	11m87	4.2

男子 走高跳

1	田中 啓 (6年)	1m95	5.20
2	持永 新 (4年)	1m75	4.1
3	小福田 大輔 (2年)	1m50	5.27
3	高橋 昌紀 (2年)	1m50	5.27

男子 棒高跳

1	大谷 真人 (2年)	4m20	4.23
2	持永 新 (4年)	3m60	4.8
3	木村 剛 (3年)	3m40	5.3

男子 砲丸投

1	持永 新 (4年)	11m00	4.1
2	合田 隆彦 (4年)	11m00	4.23
3	小林 宗隆 (3年)	10m22	5.27
4	庄司 宇 (3年)	10m09	5.27
5	田上 遼 (4年)	9m87	4.23

男子 円盤投

1	合田 隆彦 (4年)	37m29	5.23
2	庄司 宇 (3年)	30m06	5.27
3	持永 新 (4年)	27m98	5.14
4	田上 遼 (4年)	27m71	5.27
5	小林 宗隆 (3年)	26m32	5.27

男子 ハンマー投

1	庄司 宇 (3年)	38m03	4.23
---	-----------	-------	------

男子 やり投

1	北川 昂広 (2年)	51m68	4.8
2	石井 仁也 (5年)	45m55	4.2
3	持永 新 (4年)	41m15	4.2
4	葉梨 輝 (2年)	37m82	4.2

男子 十種競技

1	持永 新 (4年)	5494点	4.1,2
---	-----------	-------	-------

女子 100m

1	小原 明恵 (4年)	13"55(+1.9)	5.3
---	------------	-------------	-----

女子 800m

1	向田 恵 (4年)	2'27"01	4.1
2	日下 桃子 (1年)	2'27"59	4.1

女子 1500m

1	向田 恵 (4年)	4'53"52	4.29
---	-----------	---------	------

女子 3000m

1	向田 恵 (4年)	10'25"92	5.27
---	-----------	----------	------

女子 棒高跳

1	宮崎 彩 (3年)	1m50	4.23
---	-----------	------	------

女子 走幅跳

1	宮崎 彩 (3年)	3m49	5.27
---	-----------	------	------

女子 砲丸投

1	宮崎 彩 (3年)	5m23	5.27
2	清水 里紗 (4年)	4m85	5.27

4 自己記録更新者一覧 2006.4.9 ~ 5.27

4/23 東大競技会 (駒場)

5000m	梶井 駿介 (2年)	16'31"52
5000m	和田 光一郎 (2年)	16'59"13
棒高跳	宮崎 彩 (3年)	1m50
走幅跳	尾崎 翔 (2年)	7m12
三段跳	佐野 太郎 (4年)	14m42
砲丸投	合田 隆彦 (4年)	11m00
ハンマー投	庄司 宇 (3年)	38m03

4/29 順大競技会 (順大)

400m	今村 岳 (3年)	51"21
------	-----------	-------

4/29 日体大長距離 (日体大)

800m	新井 邦生 (4年)	1'54"41
1500m	黒澤 徹也 (4年)	3'59"87
1500m	斉藤 俊 (3年)	4'01"56
1500m	千徳 恒憲 (2年)	4'24"61
1500m	氷上 将一 (4年)	4'38"64
5000m	和田 光一郎 (2年)	16'40"75
5000m	金尾 太郎 (2年)	16'55"84
5000m	斉藤 甲次朗 (2年)	18'06"17

5/3,4 日体大競技会 (日体大)

棒高跳	木村 剛 (3年)	3m40
-----	-----------	------

5/5 国土館大競技会 (国土館大)

400m	深澤 眞楠 (2年)	50"72
------	------------	-------

5/6 東海大長距離 (東海大)

800m	千徳 恒憲 (2年)	2'08"3
------	------------	--------

5/13,14,20,21 関東インカレ (上尾、日産)

200m	渡辺 裕太 (1年)	22"16(+1.9)
800m	新井 邦生 (4年)	1'53"50
110mH	持永 新 (4年)	16"98
3000mSC	石原 宏尚 (3年)	9'24"40
10kmW	菅野 雄大 (3年)	51'44"
三段跳	佐野 太郎 (4年)	14m46

5/27 国公立戦 (舎人)

100m	田苗 真也 (3年)	11"7
200m	田苗 真也 (3年)	23"9
800m	千徳 恒憲 (2年)	2'07"9
走幅跳	宮崎 彩 (3年)	3m49
砲丸投	寺島 孝明 (1年)	6m70
砲丸投	宮崎 彩 (3年)	5m23
砲丸投	清水 里紗 (4年)	4m85

5 主務より

関東インカレ・国公立戦に駆けつけてくださったOB・OGの方々のお名前をご紹介します。お忙しい中お越しいただき誠にありがとうございました。(卒年順、敬称略)

1948年 山崎英也
 1958年 浦野穩昌
 1979年 中谷敬二
 1983年 八田秀雄
 1993年 北村賢之
 1994年 工藤麻衣子
 2000年 藤原大二
 2001年 岡野浩行
 2001年 新妻拓弥
 2001年 和田真悠子
 2003年 高梨幹生
 2003年 出口雅俊
 2003年 橋本武
 2004年 岡本泰英
 2004年 鎌倉真音
 2004年 島田俊雄
 2004年 高倉栄男
 2004年 田坂和彦
 2005年 南條靖
 2006年 塩入敦子
 2006年 田中佑貴

文責：佐野 太郎